経済学研究科の学位論文審査基準

【修士論文】

1. 審查体制

修士論文の審査では、近畿大学学位規程第 8 条(修士論文の審査)に従って、博士前期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち3名以上をもってあて、そのうち1名を主査とし、残りを副主査とする。ただし、必要があるときには、他の審査委員(本学他研究科修士課程・博士前期課程、さらに他大学大学院の修士課程・博士前期課程において、指導教員の資格を有する者を含む)を副主査として加えることができる。

なお、原則として修士論文を提出した者の指導教員は主査になることができないこととする。ただし、 論文審査において支障がきたす場合は、審査プロセスの透明性、公平性及び公正性を担保して、 指導教員が主査になることが認められる。

2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第7条(修士論文の提出)の要件を満たすものとする。

3. 評価項目

近畿大学学位規程第 10 条(修士論文合格基準)を踏まえ、以下に論文審査の評価項目を定める。 (1)研究テーマの明確性・適切性

当該分野の先行研究や関連研究を踏まえて、研究目的を明確にした研究テーマが適切に設定されていること。

(2)論理構成の一貫性・適切性

論旨展開が明確かつ論理的に記述されていること。また、文献・調査などの資料の取り扱いや引用などが適切にされていること。

(3)分析手法の適切性

研究目的を達成するのに適切な分析手法が用いられていること。

(4)結果の妥当性・新規性

得られた研究結果は正しく論証され、該当する分野において新たな知見があること。

4. 評価方法と判定

- (1)全ての審査委員が、別表の学位論文評価基準表Aに基づいて各評価項目(各評価項目の比重割合:(1)25%、(2)25%、(3)25%、(4)25%)を、1~5点で評価する。
- (2) 当該修士論文の審査委員の主査は、近畿大学学位規程第9条(最終試験)及び近畿大学学位規程第12条(合否の決定)に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数が合計点12点をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究科委員会は、近畿大学学位規程第12条(合否の決定)に則って、学位論文の審査と最終試験の合否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第13条(学位の授与)に従って、研究科委員会は、合否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の合

否の議決結果に基づき、修士の学位を授与する。

【博士論文(課程修了)】

1. 審査体制

博士論文の審査では、近畿大学学位規程第 15 条(博士論文の審査)に従って、博士後期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち 3 名以上をもってあて、そのうち 1 名を主査とし、残りを副主査とする。ただし、必要があるときには、他の審査委員(本学他研究科の博士課程・博士後期課程、さらに他大学大学院の博士課程・博士後期課程において、指導教員の資格を有する者を含む)を副主査として加えることができる。

なお、原則として博士論文を提出した者の指導教員は主査になることができないこととする。

2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第14条(博士論文の提出)の要件を満たすものとする。

3. 評価項目

近畿大学学位規程第 17 条(博士論文合格基準)を踏まえ、以下に論文審査の評価項目を定める。 (1)研究テーマの明確性・適切性

当該分野の先行研究や関連研究を踏まえて、研究目的を明確にした研究テーマが適切に設定されていること。

(2) 論理構成の一貫性・適切性

論旨展開が明確かつ論理的に記述されていること。また、文献・調査などの資料の取り扱いや引用などが適切にされていること。

(3)分析手法の適切性

研究目的を達成するのに適切な分析手法が用いられていること。

(4)結果の妥当性・新規性

得られた研究結果は正しく論証され、該当する分野において新たな知見があること。

4. 評価方法と判定

- (1)全ての審査委員が、別表の学位論文評価基準表Aに基づいて各評価項目(各評価項目の比重割合:(1)25%、(2)25%、(3) 25%、(4) 25%)を、1~5点で評価する。
- (2) 当該博士論文の審査委員の主査は、近畿大学学位規程第16条(最終試験)及び近畿大学学位規程第19条(合否の決定)に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数が合計点12点をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究科委員会は、近畿大学学位規程第19条(合否の決定)に則って、学位論文の審査と最終試験の合否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第20条(学位の授与)に従って、研究科委員会は、合否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の合否の議決結果に基づき、博士の学位を授与する。

【博士論文(論文提出)】

1. 審査体制

博士論文の審査では、近畿大学学位規程第 15 条(博士論文の審査)に従って、博士後期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち 3 名以上をもってあて、そのうち 1 名を主査とし、残りを副主査とする。ただし、必要があるときには、他の審査委員(本学他研究科の博士課程・博士後期課程、さらに他大学大学院の博士課程・博士後期課程において、指導教員の資格を有する者を含む)を副主査として加えることができる。

2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第22条(学位申請手続)の要件を満たすものとする。

3. 評価項目

近畿大学学位規程第 17 条 (博士論文合格基準)を踏まえ、以下に論文審査の評価項目を定める。 (1)研究テーマの明確性・適切性

当該分野の先行研究や関連研究を踏まえて、研究目的を明確にした研究テーマが適切に設定されていること。

(2)論理構成の一貫性・適切性

論旨展開が明確かつ論理的に記述されていること。また、文献・調査などの資料の取り扱いや引用などが適切にされていること。

(3)分析手法の適切性

研究目的を達成するのに適切な分析手法が用いられていること。

(4)結果の妥当性・新規性

得られた研究結果は正しく論証され、該当する分野において新たな知見があること。

4. 評価方法と判定

- (1)全ての審査委員が、別表の学位論文評価基準表Aに基づいて各評価項目(各評価項目の比重割合:(1)25%、(2)25%、(3)25%、(4)25%)を、1~5点で評価する。
- (2) 当該博士論文の審査委員の主査は、近畿大学学位規程第25条(学力の確認)及び近畿大学学位規程第27条(博士論文の審査方法)に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数が合計点12点をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究科委員会は、近畿大学学位規程第27条(博士論文の審査方法)に則って、学位論文の審査と最終試験の合否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第21条(論文提出による学位の授与)に従って、研究科委員会は、合否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の合否の議決結果に基づき、博士の学位を授与する。

【修士論文】[学位論文評価基準表A]

評価項目/点数	5点	4点	3点	2点	1点
(1)研究テー	国内外の先	国内外の先	国内外の先	国内外の先	国内外の先
マの明確性・	行研究や関	行研究や関	行研究や関	行研究や関	行研究や関
適切性	連研究の把	連研究の把	連研究の把	連研究の把	連研究の把
週 971工	握ができてお	握ができてお	握ができてお	握はできてい	握ができてお
	り、研究目的	り、研究目的	り、何を明ら	るが、何を明	らず、何を明
	も明確であ	も明確であ	かにしたいか	らかにしたい	らかにしたい
	り、研究テー	り、研究テー	が分かる。	かが分からな	かが分からな
	マが適切で	マも適切であ	11-11 11-12 ₀	No.	W.
	新規性もあ	る。		V '0	V ·o
		∂ ₀			
(9) 参知掛片	る。	大部. 調木ね	 文献・調査な	女掛. 調木む	大部 調木わ
(2)論理構成	文献・調査な	文献・調査な		文献・調査な	文献・調査な
の一貫性・適	どの資料の	どの資料の	どの資料の	どの資料の	どの資料の
切性	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引
	用などが適切	用などが適切	用などが適切	用などは適	用などが適切
	であり、論旨	であり、論旨	であり、論旨	切であるが、	ではなく、論
	展開が極め	展開が論理	展開は概ね	論旨展開が	旨展開が論
	て論理的で	的である。	論理的であ	論理的では	理的ではな
	ある。		る。	ない。	V,°
(3)分析手法	分析手法が	分析手法が	分析手法が	分析手法が	分析手法が
の適切性	極めて適切	適切に用いら	概ね適切に	あまり適切に	全く適切に用
	に用いられて	れている。	用いられてい	は用いられて	いられていな
	いる。		る。	いない。	い。
(4)結果の妥	得られた研究	得られた研究	得られた研究	得られた研究	得られた研究
当性・新規性	結果は正しく	結果は正しく	結果は正しく	結果があまり	結果が全く正
	論証され、該	論証され、該	論証されてい	正しく論証さ	しく論証され
	当する分野	当する分野	るが、該当す	れていない。	ていない。
	において新た	において新た	る分野におい		
	な知見が大	な知見がある	て新たな知		
	いにあること。	こと。	見はそれほど		
			ない。		

【博士論文(課程修了)】[学位論文評価基準表A]

評価項目/点数	5点	4点	3点	2点	1点
(1)研究テー	国内外の先	国内外の先	国内外の先	国内外の先	国内外の先
マの明確性・	行研究や関	行研究や関	行研究や関	行研究や関	行研究や関
適切性	連研究の把	連研究の把	連研究の把	連研究の把	連研究の把
	握ができてお	握ができてお	握ができてお	握はできてい	握ができてお
	り、研究目的	り、研究目的	り、何を明ら	るが、何を明	らず、何を明
	も明確であ	も明確であ	かにしたいか	らかにしたい	らかにしたい
	り、研究テー	り、研究テー	が分かる。	かが分からな	かが分からな
	マが適切で	マも適切であ		٧١ _°	٧١°
	新規性もあ	る。			
	る。				
(2)論理構成	文献・調査な	文献・調査な	文献・調査な	文献・調査な	文献・調査な
の一貫性・適	どの資料の	どの資料の	どの資料の	どの資料の	どの資料の
切性	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引
	用などが適切	用などが適切	用などが適切	用などは適	用などが適切
	であり、論旨	であり、論旨	であり、論旨	切であるが、	ではなく、論
	展開が極め	展開が論理	展開は概ね	論旨展開が	旨展開が論
	て論理的で	的である。	論理的であ	論理的では	理的ではな
	ある。		る。	ない。	い。
(3)分析手法	分析手法が	分析手法が	分析手法が	分析手法が	分析手法が
の適切性	極めて適切	適切に用いら	概ね適切に	あまり適切に	全く適切に用
	に用いられて	れている。	用いられてい	は用いられて	いられていな
	いる。		る。	いない。	い。
(4)結果の妥	得られた研究	得られた研究	得られた研究	得られた研究	得られた研究
当性•新規性	結果は正しく	結果は正しく	結果は正しく	結果があまり	結果が全く正
	論証され、該	論証され、該	論証されてい	正しく論証さ	しく論証され
	当する分野	当する分野	るが、該当す	れていない。	ていない。
	において新た	において新た	る分野におい		
	な知見が大	な知見がある	て新たな知		
	いにあること。	こと。	見はそれほど		
			ない。		

【博士論文(論文提出)】[学位論文評価基準表A]

評価項目/点数	5点	4点	3点	2点	1点
(1)研究テー	国内外の先	国内外の先	国内外の先	国内外の先	国内外の先
マの明確性・	行研究や関	行研究や関	行研究や関	行研究や関	行研究や関
適切性	連研究の把	連研究の把	連研究の把	連研究の把	連研究の把
	握ができてお	握ができてお	握ができてお	握はできてい	握ができてお
	り、研究目的	り、研究目的	り、何を明ら	るが、何を明	らず、何を明
	も明確であ	も明確であ	かにしたいか	らかにしたい	らかにしたい
	り、研究テー	り、研究テー	が分かる。	かが分からな	かが分からな
	マが適切で	マも適切であ		٧١ _°	い。
	新規性もあ	る。			
	る。				
(2)論理構成	文献・調査な	文献・調査な	文献・調査な	文献・調査な	文献・調査な
の一貫性・適	どの資料の	どの資料の	どの資料の	どの資料の	どの資料の
切性	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引	取り扱いや引
	用などが適切	用などが適切	用などが適切	用などは適	用などが適切
	であり、論旨	であり、論旨	であり、論旨	切であるが、	ではなく、論
	展開が極め	展開が論理	展開は概ね	論旨展開が	旨展開が論
	て論理的で	的である。	論理的であ	論理的では	理的ではな
	ある。		る。	ない。	い。
(3)分析手法	分析手法が	分析手法が	分析手法が	分析手法が	分析手法が
の適切性	極めて適切	適切に用いら	概ね適切に	あまり適切に	全く適切に用
	に用いられて	れている。	用いられてい	は用いられて	いられていな
	いる。		る。	いない。	<i>٧</i> ′。
(4)結果の妥	得られた研究	得られた研究	得られた研究	得られた研究	得られた研究
当性•新規性	結果は正しく	結果は正しく	結果は正しく	結果があまり	結果が全く正
	論証され、該	論証され、該	論証されてい	正しく論証さ	しく論証され
	当する分野	当する分野	るが、該当す	れていない。	ていない。
	において新た	において新た	る分野におい		
	な知見が大	な知見がある	て新たな知		
	いにあること。	こと。	見はそれほど		
			ない。		